

被災文化財レスキュー事業
情報共有・研究会(第1回) 東京文化財研究所

真水・塩水に浸水した 油絵、日本画の状況

東京文化財研究所
2011.5.10.
木川りか・加藤雅人・早川典子・
佐藤嘉則・小野寺裕子・古田嶋智子・
楠京子・山田祐子・川野邊渉



3.5% 塩水
または 真水

一晚浸漬



真水



3.5% 塩水



* 真水に浸かったほうが、キャンバスの傷み、
絵の具のにじみ、剥落ともに激しい傾向

3.5% 塩水 または 真水に一晩浸漬



濡れているときに
展開は可能、
(彩色はなし)

展開して風乾を試みた



風乾して数日後

表面が急激に乾いたせいか、
部分的なそりが生じ、
再び 巻くことが困難に...

カビ発生はまったくなし

この場合も、
乾いたときに
3.5% 塩水浸漬のほうが
真水浸漬と比較して
形状安定性はよい





津波で被災した掛け軸の応急処置の例 2011.5月
(約50日間濡れたまま)

絵画とともに津波に浸水した文書類については、
1か月ほどしてから陰干しされたとのことであるが、
まったくカビがみあたらない



・薄い装丁で、巻かれたまま、ゆっくりと乾いてきたものは 比較的、カビが少ない

・一方、裂(布)の装丁が厚く、まだぐっしょりと濡れているものでは、カビが発生しているものが多かった

(巻き方の影響もあるように見受けられる)

少し湿っている程度で
展開できるものは、数時間
風をおしたのち、
巻いて風通しのよい場所で
水取り紙の上で陰干ししてもらう
(1~2週間)



カビがひどいものは、
1. うすい化繊紙でおおい
2. そのうえに
水取り紙をかぶせ

3. そらないように、
新聞紙の束で軽く重しをし、
平置きのまま、風通しをよくして
1~2週間、ゆっくり乾かす



最後に

- ・メモの効用 --- けして無理しない
 - ・カビに備えて、マスク着用のこと
(できれば、防塵マスクがお勧め)
 - ・化繊紙(うすいポリエステル紙)、
水取り紙は、必須 (新聞紙も活用)
- (感想:塩水では、やはりカビは少なめと感じる)